長崎大学 大学院多文化社会学研究科 (H30設置)

設置の趣旨・必要性

文化と諸現象の錯綜

- 21世紀の「多文化社会」では、文化と諸現象(政治、 経済、社会, 歴史, 科学・技術などの現象) が相互に 影響を及ぼし共変している
- 超域的に形成された諸問題に対して、既存の学問的分 業では社会的要請への対応が困難

既存の学問領域の限界

- 多文化社会的状況における諸問題の専門的解決には、 専門知の超域的活用の受け皿となる新たな学問的枠組 みの構築が必要
- 人文社会科学系の学問が本来有する力が十分に活かし 切れていない教育状況

多文化社会的状況が求める人材

- ◆ 人文社会科学系の「超域的」かつ「俯瞰的」な専門知 (多文化社会学)を有する人材
- 知のスペシャリストとして、諸問題の発見・説明・予測・ 解決に取り組むことのできる人材

特色ある教育 (専任教員:28名)

多文化社会学の超域的・俯瞰的な深化

- 存在論・認識論・方法論の問い直しという哲学的 十台に踏み込んだ基盤必修科目群の実施
- 人文社会科学が本来持つ問題解決能力(批判 カ・構想力・実践力)を涵養



海外での多彩なフィールドワーク等の実践

- 文化的かつ言語的他者とのコンタクトやインタラク ションを通じた, 卓越した語学力や情報収集分析 カの涵養
- 多様性や環境への認識,文化や他者への共感の

世界トップクラスの専門図書館等との連携

- 東洋文庫,国立歴史民俗博物館等の特有の専 門知を有する研究者からの指導
- 国際ネットワークを生かしたオリエンタルスタディーズ 分野の世界的リーダーを養成



学問のエレメンツ (基盤必修科目群)

人文社会科学

存在論 認識論 方法論

人文社会科学の概念や理論を、学 問の土台的基礎(存在論・認識論・ 方法論)に位置付け直し、各方法論 の射程と限界を批判的に検討

多文化社会学 の深化と修得

専門知の超域的活用の受け 皿へと深化させ、方法論と しての成熟化を図る。多文 化社会学の修得を徹底化



学問のプラクティス

グローバル・スタディーズ科目群

・人文社会科学の見地から文化的他者への理解と共感に基づき, 超域的に 知と人を繋ぐことで、民族・宗教・文化・国家の摩擦や対立等にみる存在 や意味の多様性に対する否定・反動に対して、専門的解決を図っていく。

政策科学科目群

既存の国際経済学(上からの視点)と地球上で生活する人々の視点(下 からの視点)を調和した「世界政策論」を開拓し、政策・制度・規範と 人間の安全保障に関わる問題等について専門的解決を図っていく。

環海日本長崎学・アジア研究科目群

人文科学と社会科学の連携に基づく諸観点から、日本・アジアと世界の 交叉・輻輳のなかで生じる歴史・文化・社会の問題について専門的解決 を図っていく。

言語多様性科目群

言語学の多様性を文法的・音声的特性,文化社会的規則や談話レベルの 特性等から捉えることで、コミュニケーションの発話行為を通じた意味 創出等, 言語が現実構成の基盤にあることへの理解の欠如に関わる問題 について専門的解決を図っていく。

核軍縮・不拡散科目群

・核軍縮・不拡散分野において人文社会科学系と自然科学系及び 研究と実務の両側面を兼ね備える(文理融合)ことで、人道 面・安全保障・経済等の問題について専門的解決を図っていく。

養成する人材像・就職先

養成する人材像

21世紀社会の多文化社会的状況における諸問題に対して、文化的 他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利 害を洞察でき、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横 断的に繋ぎつつ、多文化社会学の超域的かつ俯瞰的な見地から問題 の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる人材

想定される就職先

- 商社・食品・製造等のグローバル企業
- 国際機関、シンクタンク、国際NGO
- 編集者, 記者, アナリスト(国際社会問題

入学試験情報

入学定員:10名(修十課程)

● 実施時期: H29.11月、H30.2月

● 試験科目(一般):専門科目、英語、面接

修得学位:修十(学術) Master of Arts





